

一般演題 治療装置・運用 OP7-3 高気圧酸素治療装置の更新に関する報告

○後藤幸弘 寺島滉貴 佐々木樹里 松林 萌
岩下龍翔 柴崎菜津 市川百佳 飯島小晴
IMS グループ 横浜新都市脳神経外科病院 臨床工学科

【背景】

当院は横浜市に位置する、病床数 317 床の脳神経外科専門病院である。

昭和 60 年に開設後、2 度の増築工事が行われた。

第 1 種装置 2 基で脳梗塞患者を主な対象に、高気圧酸素治療を行っている。

【目的】

現存の装置は 35 年前に設置されたもので、経年劣化を主な理由に装置入替を計画した。

【方法】

メーカー担当者や病院設備を管轄する部門（施設課）と協議を進め、購入機器の選定、既存装置の搬出、治療室の改装、新規装置の搬入等の打ち合わせを行った。

大型の医療機器であり搬入、搬出の際は 4t ユニック車 1 台、4t トラック 1 台、2t トラック 1 台が必要であり、上部スペースを含めた運送トラックの停車位置、荷解き場所の確保が必要であった。

また出入り口の大きさ、廊下の幅や曲がり角のスペース、エレベータ籠の内寸、荷重能力から経路設定を要した。病棟を通過するため搬入、搬出を行う時間設定、関係各所への連絡、不具合に対する事前対応の必要性を挙げられた。

【結果】

概ね予定通り作業は進行したが、エレベータへの乗り入れで予定外の作業を要した。HBO 装置のサイズが想定より大きくエレベータ籠に収まらない、重量警報により昇降作動の停止の 2 点が起きた。しかし、エレベータ技術者を招集しており籠内の配置アドバイスを受け、警報を回避し搬入作業を継続できた。

【考察】

当院は 38 年前に開設された病棟に 2 度の増築を加え 3 棟構成となっており、エレベータなどの設備スペースも建築の年代により異なっている。機器メーカーと臨床工学技士のみでは把握できない部分が多く、多職種連携による計画立案が重要であった。また、臨床での問題点からスペック優先の機種選定を行ったため、搬入に関わる条件において余裕がない状況であったが不測の事態に備え、余裕を持たせた選定も考慮すべきであった。

【結語】

各部署との綿密な協議により、トラブルに対しても迅速な対応が出来る体制を敷いていたため、大きな問題なく高気圧酸素治療装置の更新を行えた。